

# 島原鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間  
22～24年度

島原鉄道は人口減少や少子高齢化に、半島という地形的条件も加わり、平成20年3月末をもって南線(島原外港駅～加津佐駅間)が廃止となる厳しい状況にあることから、日常利用客の増加、観光客等交流人口の増加等を図るため、企画乗車券の実施、港と鉄道駅等のアクセス円滑化のための案内板の設置等の事業を実施する。

## 【島原鉄道沿線地域公共交通活性化協議会】

島原市、諫早市、雲仙市、島原鉄道、九商フェリー、熊本フェリー、九州旅客鉄道、有明海自動車航送船組合、商工会議所、自治会、観光協会、学校、道路・港湾管理者(以下オブザーバー)九州運輸局、長崎運輸支局、長崎県

### ③総合的な沿線マップの作成(990千円)



### ⑥港と鉄道駅等のアクセス円滑化のための案内板の設置(6,100千円) 島原港ターミナルビル



## 事業の概要(22年度)

※数字は事業費

### ①企画乗車券の実施(買い物・通院等日常生活活動に合わせた企画切符)(442千円)

通勤通学時間帯を除く時間帯の便にのみ利用限定した「昼割回数券」により、通勤通学時間帯の混雑緩和と主婦層や高齢者など新たな利用者を開拓する。



### ②企画乗車券の実施(切符自体に付加価値のある企画切符)(942千円)

企画乗車券の利用者にポイントカードを発行し、日頃利用しているお客様の利用頻度の増加と新たな利用者の掘り起こしを行う。



### ④各駅前に沿線案内地図の設置(924千円)



### ⑤鉄道・バスとの乗継時刻表の作成(930千円)



港と鉄道駅等のアクセス円滑化のための案内板の設置(島原港ターミナルビル)

凡例	
	島原鉄道
	高速道路・自動車
	国道・県道・市町村道
	主要なバス線

## 22年度 導入への プロセス

収入の多くを占める通学者が今後大きく減少することから、将来的には交流人口の増加が重要な施策の一つになるため、観光客等の交流人口の増加をめざし、観光面の利用活性化に資する各種事業を実施することとした。

九州新幹線鹿児島ルートの新幹線開業を控え、熊本からの広域来訪者の取り込みを図るため、島原港と鉄道駅との連絡を円滑にするための案内情報を提供する案内板の設置事業を実施することとした。

観光面の利用活性化に資する事業として取り組んだ「総合的な沿線マップの作成」や「各駅前に沿線案内地図の設置」等の実施にあたっては、協議会を構成する沿線3市（島原市、諫早市、雲仙市）の交通担当課だけでなく、各市の観光担当課との調整が必要であるため、事業実施に向けて協議を重ねた。

## 22年度 事業の 効果

### 観光利用の促進

観光面の利用活性化に資する事業として実施した各種事業の評価をする中で、鉄道を利用する上での利便性について利用者アンケートを実施したところ、「総合的な沿線マップの作成」78%、「各駅前に沿線案内地図の設置」95%、「鉄道・バスとの乗継時刻表の作成」89%、「港と鉄道駅等のアクセス円滑化のための案内板の設置」100%という高い評価となった。

### 潜在需要の掘り起こし

潜在需要の掘り起こしとして、「企画乗車券の実施」事業を行ったが、「企画乗車券の実施（切符自体に付加価値のある企画切符）」については、事業実施期間の対前年度比が本事業実施前の対前年度比と比較して1.1%の増となっており、企画乗車券の利用者数低下に対し一定の歯止めになった。利用者アンケートにおいても、「ポイントカードの発行により企画乗車券の利用機会が増えると思うか。」の問いに対し、71%の方が利用機会が増えるという回答している。

### イベントによる利用促進

春の訪れを告げる島原の風物詩である「島原初市」において、「公共交通機関を利用しようキャンペーン」イベントとして、「総合的な沿線マップの作成」事業で作成した「島原鉄道沿線マップ途中下車の旅」を来場者に配布し、島原鉄道の利用促進に向けてPRを行った。

## 次年度 以降

### 島原鉄道の利用促進を図るため、様々な施策を展開し、更なる利用拡大を図る。

22年度事業として実施した「企画乗車券の実施（切符自体に付加価値のある企画切符）」については、利用者の満足度が高く、次年度以降も継続していくことにより更に認知度が高まり、企画乗車券の利用者増につながると期待されるので、効果的な広報の検討やポイント獲得の難易度調整など、必要な見直しを行いながら、本格実施を行う予定である。

23年度事業として、自家用車利用者を鉄道利用へ誘導する「パーク＆ライド用駐車場の整備」事業、鉄道利用者の満足度の向上及び地域住民のマイレール意識の向上を目指す「待合所の改修」事業、観光客等交流人口の増加を目指す「観光地と駅間の経路案内板の設置」事業、マイレール意識の向上を目指す「鉄道利用促進に向けた意識啓発」事業などの様々な事業に取り組む、島原鉄道の利用促進を図る。